柏原中学校区小中一貫教育推進事業

１．研究主題

「生き抜く力を育む小中一貫教育」
～狭山市小中一貫教育基本方針に基づいた、柏原小中一貫教育～

２．研究への取組方針

柏原地区では、中１ギャップの解消をめざし、平成３０年度から小中学校９年間の連続性を重視した計画的かつ系統的な指導を積み上げ、児童・生徒が安心して学べる環境づくりと学力向上を目指し、柏原小中一貫教育へのスタートをさせた。

３．研究への取組・研究経過

（1）小・中学校で連携した行事

６月　小中連絡会

前年度６年生の職員を中心に、中学校の授業を参観する機会を設けた。また１学年に限らず他の学年も公開授業としたので、中学校の教科担当ごとのの授業を受けている様子も見てもらった。授業参観後には現中学１年の担当者を中心に、個々の生徒の情報交換会を設けた。

１月　新特別支援学級の名前の決定

柏原中学校に新たに特別支援学級が設立されるにあたり、中学校側でその学級名の募集を生徒に行った。その結果１２の候補とその理由とともに表にまとめたものを小学校に送り、その候補の中から小学校の特別支援学級の児童たちにより選ばれた名前に決定した。

２月　「６年生へのメッセージ」作成

現中学校１年生に中学校での生活を振り返って、中学校生活の様子等を掲示物にまとめ小学校に渡した。小学校では６年生が中学校生活のイメージを持てるように昨年度の分も含めて掲示している。

２月　小中連絡会

中学校の職員が、次年度中学１年生になる児童の様子を参観した。国語・算数の授業の参観だけではなく、給食や清掃の様子も参観した。また授業参観後には個々の生徒の情報交換を行った。

（2）柏原地域の取組

１２月　柏原地区防犯パトロール

柏原地区が安全で、安心して暮らせる地域になることを目指して、毎年教員も地域の一員として防犯パトロールを行っている。今年度はＰＴＡとも連携をとり、小グループに分かれてパトロールを行った。

学校運営協議会

柏原地区学校運営協議会において１４人の委員と６人の役員を中心に、主体的に会の運営に携わっていただいている。運営協議会の事前には役員会を開き、協議会の内容や方向性について話し合いを持つなど積極的に取り組んでいる。

４．成果と課題

柏原中学校区は、小学校と中学校が隣接しており、一貫教育に取り組みやすい校区である。また、６年間過ごした級友とほとんど変わらず中学校へと進学するため、中１ギャップはほとんど見られず円滑な接続がなされている状況がある。しかしながら学習面では、中学校の学習の仕方についてギャップを感じている生徒も多くみられる。学力向上が大きな課題となっている校区であるので、学力向上に向けてどのような連携ができるか学習面での連携強化を図っていきたい。

また学校運営協議会の充実を図り、地域の方の協力をいただきながら地域と共に成長する学校を目指していきたい。